謹賀新年

音楽の都チェコ・プラハの名門

プラハ交響楽団

これぞ本家の「新世界」！

© Jan Kolman

2024
1/8（月・祝）
2:00PM開演　兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲（チェロ：岡本侑也）／交響曲第9番〈新世界より〉 ほか

首席指揮者 トマーシュ・ブラウネル スペシャル・インタビュー！

2024年1月に来日する、プラハ交響楽団（以下プラハ響）の首席指揮者トマーシュ・ブラウネル氏のインタビューが届きました。

ブラウネル氏はプラハ生まれ。オーボエ奏者の父と、ピアノや合唱を嗜む母のもとで育ちました。10歳のときにバーンスタインの子ども向けのテレビ番組を観て、オーケストラに入りたいという希望を抱きます。その後オーボエ奏者としてチェコ室内管で活躍したのち、指揮へ転向。ラドミル・エリシュカのもとで学び、キャリアをスタートさせました。2020年にプラハ響首席指揮者に就任。堅実で思慮深く、温かい人柄で、団員からも厚い信頼を得ています。

― プラハ響に就任してから初めての来日ツアーですが、これまで日本には来たことがありますか？

はい、オーボエ奏者だったころ、25年前にチェコ室内管の日本ツアーに参加しました。25年前というと、まだほんの子どもだったころですね（笑）。何もかも鮮明に覚えています。東京芸術劇場や札幌コンサートホールKitaraで演奏しましたが、素晴らしい音響でした。日本の皆さんが、とても丁寧に、私たちを尊重してくれたことも忘れられません。今回の日本ツアーは、心から楽しみにしています。とても嬉しいです。

―プラハ響は2024年で創立90年。首席指揮者として3年間過ごした中で感じた、この楽団の特徴を教えてください。

プラハ響は「開花するオーケストラ」です。力を秘めており、それが本番のステージ上で一気に花開くようなエネルギーを感じます。また観客とまるで友人同士のような親密な関係を築くことも特徴的だと思っています。

― 今回の日本ツアーではドヴォルザークとスメタナ（兵庫での演奏は無し）のプログラムが入っています。チェコ人指揮者として、この作曲家たちについてどのような気持ちで演奏をしますか？

毎年の元旦コンサートではドヴォルザークの「スラブ舞曲」を、建国記念日にはスメタナの「わが祖国」を全曲演奏しており、やはりチェコにとってたいへん特別な作曲家です。他国で演奏するときには、チェコ音楽の真髄を伝えなければという使命を感じます。するとその意志を団員が感じ取り、それに応えて力を発揮してくれ、指揮をしながら感動するほどです。

ドヴォルザーク「新世界より」はお馴染みの名曲です。私たちのドヴォルザークを是非会場で聴いていただきたいです。

― ありがとうございました！

裏面は楽団員インタビュー！

プラハ交響楽団で活躍する日本人団員にインタビュー！

本田淳子さん（左）と高橋紘子さん（右）

本田淳子さん（打楽器）
高橋紘子さん（ヴァイオリン／アシスタントコンサートマスター）

― どのような経緯でプラハ交響楽団（以下プラハ響）に入団したのですか？

本田:日本で勉強したあと、チェコ音楽が好きだったので、プラハ芸術アカデミーで学びました。そのあと2007年にプラハ響に入団しました。

高橋:私はウィーンのサマー・アカデミーで学んだ先生に勧められ、プラハ芸術アカデミーに入学しました。プラハ国民劇場の楽団に所属したあと、2015年にプラハ響へアシスタントコンサートマスターとして入団しました。

― お二人から見た、プラハ響の特徴を教えてください。

本田:特徴としては、ホルンやトランペットのレベルがたいへん高いと思います。よくチェコのホルン奏者はうまいといわれますが、プラハ響もそうで、特にホルンは抜群にうまい！

― オーケストラやチェコ人にとって、ドヴォルザークやスメタナはどのような存在なのでしょうか？

本田・高橋:彼らの演奏するドヴォルザーク、スメタナには、楽譜に載っていない伝統があります。チェコで勉強した音楽家に染みついている、チェコならではの“節”のようなもので、私たちにとっても、演奏していると、チェコの風景、自然、その匂いが浮かんでくるようです。

チェコの国民性は少し日本と似ていて、控えめで堅実、内に誇りを秘めているようです。そんなチェコ人も、ドヴォルザークやスメタナが演奏されると、聴衆・奏者双方で「チェコを共有しよう」というような熱い空気が感じられます。私たちのスメタナ、私たちのドヴォルザーク、という誇りですね。

― チェコで音楽を仕事にするお二人から、海外のオーケストラで仕事をしたい学生に向けてアドバイスをするとしたら？

本田:一生懸命練習することは言うまでもありませんが、まず、語学の勉強はとても大切。伝統ある場所でチームに入るのだという気持ちを忘れず、歴史を尊重し、積極的に溶け込む努力が大事だと思います。

― 日本公演について、お客様に向けてメッセージをお願いします！

本田:すごく楽しみにしています！ツアー中は100円ショップや、ユニクロ、ラーメン屋さん、お寿司屋さん等々で、はしゃぐチェコ人を見かけるかもしれませんが（笑）、温かく見守ってください。みんな、今からとてもワクワクしています。

高橋:プラハ響ならではの、“チェコ節”を楽しんでください！私も今からワクワクが止まりません。

― ありがとうございました！

このチェリストがすごい！ 岡本侑也

© Shigeto Imura

世界最高峰ともいわれるエベーヌ弦楽四重奏団の客演チェリストとして活躍するなど、現在欧州で大躍進中の岡本侑也さん。

近年、欧州各地で室内楽公演をともに行う巨匠ピアニスト **クリスチャン・ツィメルマン氏も「岡本侑也と室内楽を演奏したその最初の一音から、彼の音楽家としての在り方に驚きました。将来、日本そして世界において、彼はこの楽器（チェロ）の重要なソリストとみなされることを確信しています。」**と、コメントを寄せ絶賛しています！

ドヴォルザークのチェロ協奏曲は「**チェリストにとってかけがえのないレパートリー**。本場チェコのオーケストラと協演できて本当に光栄」という岡本さん。大器の演奏にご期待ください！

トマーシュ・ブラウネル指揮 プラハ交響楽団

ドヴォルザーク：「伝説」op.59より第3曲 ※当初の発表より追加になりました ／**チェロ協奏曲**（チェロ：岡本侑也）／**交響曲第9番〈新世界より〉**

2024 1/8（月・祝） 2:00PM開演 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール A12,000円 B9,000円 C・D売切（全席指定／税込）

ご予約・お問合せ | **芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255** 10:00AM-5:00PM 月曜休※祝日の場合翌日 https://www.gcenter-hyogo.jp

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。 ※やむを得ない事情により、出演者・曲目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター